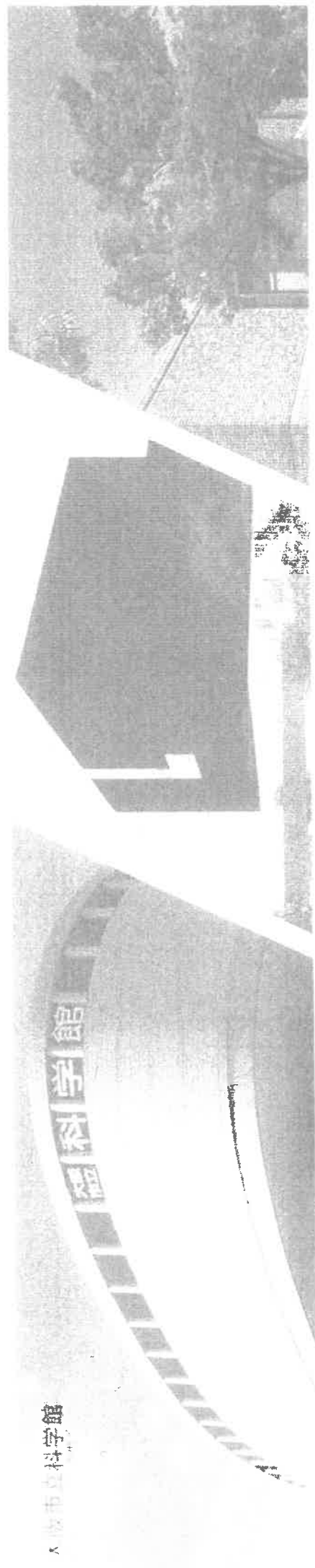




令和元年度事業実績報告

地方独立行政法人大阪市博物館機構

2020年6月26日



INDEX

- 令和元年度事業概要
- 決算概要
- 収入・支出について
- 顕在化した課題

* 財務諸表は別紙

令和元年度事業概要

平成31年度は、機構にとって設立初年度に当たり、さまざまな事項に初めて取り組んだ1年であった。また、年明けの1月以降は、新型コロナウイルスの蔓延に伴い主要な博物館活動が制約されるとともに、2月29日以降は各館とも臨時休館を余儀なくされ、閉館のまま年度末を迎える事態に陥った。

■館運営について

- ・常設展は過去5年間で最高の104万人、特別展は同じく二番目となる75万人、総観覧者数は過去最高となる256万人を記録した。

■組織体制について

- ・年度当初に学芸員4名、事務系管理職1名を、10月以降は学芸員1名と事務系管理職4名を採用し、組織の基盤強化と活性化を図った。
- ・新館長の選考や現行館長の処遇改善を行い、館の体制とガバナンスの強化を図った。

■内部統制にかかる取組みについて

- ・内部統制やリスク管理に関しては、諸規定や会議体の整備を図るとともに、11回の理事会、9回の経営会議を開催し、コロナ感染症対策をはじめとする緊急事態に対しても、法人として迅速な意思決定と適切な対応を行った。

決算概要

経常収益：29億 800万円
 経常費用：27億 375万円
 経常利益：1億7064万円

	(百万)	予算	決算	増減
収入の部				
経常収益		2,869	2,864	-5
運営費交付金収益		1,979	2,012	33
事業収入		761	752	-9
寄附金収入		0	12	12
その他収益		35	9	-26
資産見返物品受贈額戻入		94	79	-15
費用の部				
経常費用		2,869	2,693	-176
業務費		1,901	1,786	-115
展覧会経費		487	488	1
その他業務経費		239	202	-37
人件費		1,175	1,096	-79
減価償却費		94	69	-25
一般管理費		874	838	-36
当期純利益		0	171	171

収入について

経常収益：-500万円

- ・ 予-決プラス特別展：+4200万円
- ・ 予-決マイナスの特別展：-4100万円

フェルメール展：+1700万円
 ファインランド陶芸展：+1400万円
 浮世絵展：+1000万円 他

竹工芸展：-1300万円
 森俣先展：-1000万円
 刀剣展：-600万円 他

コロナによる
影響が大きい

- ・ 予-決プラス平常展：+1100万円

市 美：+230万円
 自然史：+360万円
 東 陶：+30万円
 科 学：+430万円

- ・ 予-決マイナス平常展：-1200万円

歴博

- ・ コロナによる影響による美研など事業収入の落ち：-500万円

支出について

経常費用：-1億7,600万円

人件費：-7,900万円

令和元年度においては、法人の活動の中核を担う専門的な人材の安定的な確保や、専門的な知識又は技能を有する民間の人材の登用を進めたところであるが、機構発足後1年目ということもあり、より優先度の高い人員の配置から進めた。また、兼務制度や有期雇用職員制度を有効的に活用することで、人件費総枠の縮減に努めた。

＜主な減要素＞

兼務制度や有期雇用職員制度により、令和元年については不補充として縮減に努めた人件費について

- ・館長の処遇改善を年度途中に実施（11.1付け）
- ・各館の総務課長の固有職員化を年度途中に実施（10.1付け）
- ・欠員（6名）の不補充

光熱水費：-8,700万円

＜主な減要素＞

エネルギー調達の基本契約の変更とオイル安の状況により光熱水費の大幅縮減が実現

各経費の見直し：-1,000万円